

## 論文内容の要旨

氏名	角谷 勇磨
Anterior Quadratus Lumborum Block and Quadriceps Strength: A Prospective Cohort Study  (和訳) 腰方形筋ブロック前方アプローチと大腿四頭筋筋力: 前向きコホート研究	

### 論文内容の要旨

腹腔鏡下腎臓摘出術の術後痛には腰方形筋ブロックが有効とされる。一方で、腰方形筋ブロックの施行後に大腿四頭筋の筋力低下が生じたという症例報告が散見される。しかし、筋力低下の評価は主観的なスケールを用いており、術後の筋力低下を客観的な数値として評価した報告はほとんどない。本研究では、ロボット支援下腎臓部分切除術に対して腰方形筋ブロックを行った患者の大腿四頭筋筋力を徒手筋力計により客観的な数値として測定して、腰方形筋ブロックがどの程度大腿四頭筋筋力や早期離床に影響するのか調査した。徒手筋力計を用いて手術前日、術後24時間後、96時間後の大腿四頭筋の筋力を測定し、同時に術後回復の質を測定するために QoR-15 (Quality of Recover-15)を聴取した。

フォローが完了した 30 名の患者のうち、9 名(30%)で神経ブロック施行側の脚で筋力低下があった。手術や痛みの影響を除外するために神経ブロック非施行側の脚と比較すると、4 名(13.3%)で神経ブロックによると考えられる筋力低下が生じた。また、介入が必要な痛みがある、また術後回復の質が中程度である患者では筋力低下が生じやすい傾向にあったが、全症例で術後1日目には歩行可能であった。術後の筋力低下は炎症や麻薬の使用、廃用などでも生じるが、神経ブロックによる筋力低下を定量化し、そのデータを示した論文初めてである。

ロボット支援下腎臓部分切除術の際に腰方形筋ブロックを施行すると筋力低下が生じる可能性があるが、離床には影響がないことが示唆された。